



第 11 号
2024 年
3 月 3 日

教会訪問記

北関東教区 前橋聖マツテア教会

2月3日、よく晴れた空の下、前橋聖マツテア教会を訪問しました。

前橋マツテア教会の建つエリアは、群馬県庁、前橋市役所など行政の中心地で、歴史ある町です。そして「まちなか教会群」として前橋の観光リーフレットに載るほど、キリスト教の教会が集まっています。明治期に製糸工場が造られ、前橋には西洋からの製糸技術と共にキリスト教も広まったのだそうです。

今回は、前橋聖マツテア教会で朝の礼拝をそとげた後、「まちなか教会群」巡りに出かけました。昼食は教会の新しい会館で「上州御用鶏めし」と手作りみそ田楽、庭でとれたハッサク、前橋のお菓子など、温かく迎えてくださった教会の皆様にご感謝いたします。

教会巡りは目から鱗がいっぱいの時間でした。語り尽くせませんがほんの少しご紹介です。聖マツテア教会からすぐ近くの日本基督教団前橋教会は新島襄にいじまじょうの弟子、海老名弾正えびなだんじょうによって始めら

れた教会とのこと。建物は現代的で、寄付を募って改装した「誰でもトイレ」のさりげない虹色のマークが印象的でした。そこから歩くこと数分の前橋ハリストス正教会は「前橋のニコライ堂」と呼ばれ、聖室内には神の国のイメージを表すアイコンが美しく並んでいます。大通りをまたぐと、ネオ・ゴシックの塔が二つ、カトリック前橋教会がありました。1945年8月5日、大空襲で一帯が焼け野原となりましたが、石の柱と壁を持つこの聖堂だけが残ったそうです。最後に、聖マツテア教会。北関東教区主教座聖堂であり、また「マキム主教記念聖堂」と名付けられた礼拝堂には親しみ深い空気を感しました。短い懇談の時間をもって今回の巡礼企画は終わりました。

知ること、出会うこと。歴史や浪漫。訪れる場所ごとに地域の特色があり、感動があります。巡礼企画、今回は約20名の参加者でした。次は、これを読んだ貴方も一緒に！

(福澤真紀子 記)

次の巡礼企画は、4月13日に多摩グループの聖マルコ教会・滝乃川学園で開催される予定です。お問い合わせ、参加お申し込みは、「巡礼チーム」メールアドレスまで。

締切：4月7日(日)

junreiteam@googlegroups.com

ハルルヤー！大根の収穫

2023年12月2日、東京教区の青年活動として、毛呂山聖霊教会の高橋さんの畑で大根を収穫しました。9月に小さな種を蒔き、たった3ヶ月で立派に育った大根を見ると、太陽と大地の恵、植物の神秘を感じ、この間大根のお世話をし続けてくださった高橋さんの背中が大きく見えました。

人生初の大根抜きを経験した中学生も、種まき作業の重労働が忘れられない教役者も、お手伝いに加わってくださった毛呂山聖霊教会の方々も、清々しい顔で秋晴れの空の下収穫の喜びを味わいました。収穫された大根は、その日のうちに東京ごども子育て応援団に届けられ、フードパントリーに役立てられました。



写真いっぱい！
巡礼チームブログ

北関東・東京教区合同礼拝 延期！
5月3日に立教女学院聖マリヤ礼拝堂での合同礼拝は、日時・会場を含め再考する必要が生じ、延期になりました。今後は、両教区合同礼拝実行委員会で、再計画案を立てていきます。

北関東教区 第7回「教会を語る会」開催！

2月12日小山祈りの家において、北関東教区「教会を語る会」を実施しました。北関東教区では宣教協働と新教区設立について、これまでに「語る会」を重ねてまいりましたが、埼玉県での開催であったため、今回は主に、群馬・栃木・茨城伝道区からの参加を望み、小山祈りの家で開催しました。

高橋主教から管理主教メッセージ、東京教区の現状と受け止めについてお話があり、続いて各担当者からは、東日本宣教協働区、宣教協働特別委員会の動向報告、また「新教区設立への道」を資料としてスケジュール案の共有、財政的課題と取り組みについての共有などがなされました。

参加者からの意見や質問があり、教区がどのように歩んでいこうとしているのか、また各教会・礼拝堂がいかにして「教会」として歩もうとしていくのか、様ざまな思いを分かち合いました。

最後に、日本聖公会組織成立記念日聖餐式をささげ、散会となりました。

宣教協働と新教区設立、そのことを契機として、教会・礼拝堂が自分たちの姿を想い、次の一步を想う「教会を語る会」となりました。

2024年み言葉と歩む大齋節

「黙想の手引き」のおすすめ

東京教区 執事 ウィリアムズ藤田 誠

2024年の大齋節が2月14日の「灰の水曜日」より始まりました。この「灰の水曜日」礼拝で私たちは「塵で作られてやがて塵に帰る」限りある存在であることをキリストの受難と死を思い起こすことによって感じます。北関東教区と東京教区の教役者の方々のご協力のもと、今年も「み言葉と歩む大齋節」を発行することができました。

この冊子で用いられている日々「み言葉」はフランスにあるエキュメニカルな修道会、テゼ共同体で用いられているものなので、私たちが使用している聖書日課とは異なります。しかし、ここで示されている聖書箇所は、例えば、福音書においてはキリストの受難を想起させる箇所が選定されていて、旧約聖書では救い主（メシア）を待つ人々がその到来について、どのように人々に表されるのが示されているように、また、使徒書はキリストの十字架の意味を読み手に問う内容のものが多く選ばれています。この内容を確認するとき、私たちが使用している聖書日課の流れと同じのように思います。

そこでみなさまには通常の日課表と併せて、この冊子に表されている「み言葉」を日々、心に留めて頂きたいです。そして、その「み言葉」をどのように受け止めることができるのか、一例として北関東教区と東京教区の教役者がメッセージを添えているので、みなさまの心の中でそのメッセージと対話を試みたり、教会のみなさまと思いを共有できると、この大齋節の歩みが個々のみに留まらず、教会共同体の歩みかさへと繋がるのではないのでしょうか。この冊子と共に希望をもってキリストのご復活を待ち望みましょつ。



『きょうどう通信』へおたよりをお寄せください。宣教協働へのご意見・ご質問は下記メールアドレスまで。ご意見は「特別委員会」で共有しますが、掲載できませんが、ご了承ください。「春」をテーマにした川柳もお待ちしております。お名前は載せません。
kouhou.k.t@gmail.com

『きょうどう通信』第11号

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会

広報小委員会